

航空機着陸拘束装置 年次認証試験

Yokota Airmen conduct annual Aircraft Arresting System certification

February 8, 2022

By Yasuo Osakabe
374th Airlift Wing Public Affairs

横田基地で2月4日、第374装備即応中隊と第374運用支援中隊の空兵は航空機着陸拘束装置(AAS)の年次認定試験を完了した。

AASは、航空機の後部に取り付けられたアレスティング・フックを利用し、短距離着陸時に機体を安全に減速・停止させる装置である。

今回、横田はより現実的な航空機の着陸拘束試験を実施するため、海兵隊岩国航空基地第27戦闘攻撃飛行隊(VFA)「ロイヤルメイセズ」所属の海軍F/A-18Eスーパーホーネットを用い、評価を行った。

第374運用支援中隊飛行場管理副監理官アロン・ウッズ曹長は、「一般に“高速タクシー”と呼ばれる方法で、戦闘機が滑走路を高速で地上滑走しながら我々のAASをテストした。空兵が実際に近い状況を体験できたのは有意義だった」と述べた。

今回の認証試験では、航空機が緊急時に通常の着陸を行えない場合における、システムの安定性と有効性が評価された。

「(横田は)三沢基地や嘉手納基地、そして空母にとっての主要な代替着陸地である。(AASの認証によって)緊急事態が発生した際に、基地周囲の航空機を支援することができる」とウッズ曹長はコメントした。

横田基地が戦闘機にとって安全に利用できる飛行場であることの認証を行うことによって、この地域の運用上の制約を解消すると共に、米海軍、米海兵隊、航空自衛隊の戦闘機資産を支援する横田の能力を高め、航空戦力全体の可能性を広げることができる。

